

第 31 期 第 3 四半期報告書

(2025 年 1 月 1 日から 3 月 31 日まで)



2025 年 4 月 30 日

株式会社 旅籠屋

会社名 (定款上の商号)

英文名 (英文商号)

代表者の役職氏名

本店の所在地

電話番号

連絡先

株式会社 旅籠屋

Hatagoya & Company

代表取締役 甲斐 真

東京都台東区寿 3 丁目 3 番 4 号

03-3847-8858

取締役 亀井 明

I 当期の業績

(1) 損益計算書 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

期別 科目	前年度 第 3 四半期 2024.1.1～	前年度 第 4 四半期 2024.4.1～	当年度 第 1 四半期 2024.7.1～	当年度 第 2 四半期 2024.10.1～	当年度 第 3 四半期 2025.1.1～	当年度 累計 2024.7.1～	前年同期 比	前年度 同期累計 2023.7.1～
	2024.3.31	2024.6.30	2024.9.30	2024.12.31	2025.3.31	2025.3.31		2024.3.31
I 営業収益 売上高	532,118	551,534	730,974	621,367	526,486	1,878,828	▲0.1%	1,880,226
II 営業費用 売上原価	480,593	495,684	488,293	487,232	514,155	1,489,680	+ 4.3%	1,427,596
販売費及び一般管理費	58,779	65,812	64,787	69,869	70,969	205,626	+ 6.4%	193,286
営業利益または営業損失(▲)	▲7,254	▲9,962	177,894	64,266	▲58,639	183,521	▲29.2%	259,343
III 営業外収益	1,719	2,304	1,717	1,776	1,961	5,455	+ 0.1%	5,449
IV 営業外費用	7,484	17,328	8,213	7,632	7,494	23,340	▲1.6%	23,715
経常利益または経常損失(▲)	▲13,018	▲24,986	171,397	58,410	▲64,172	165,635	▲31.3%	241,077
V 特別利益	—	—	59,211	—	—	59,211	—	—
VI 特別損失	2,184	300	25,570	36,480	44,776	106,826	+ 310.2%	26,043
税引前四半期(当期)純利益または純損失(▲)	▲15,203	▲25,286	205,039	21,930	▲108,949	118,020	▲45.1%	215,033
法人税、住民税	4,383	3,947	4,115	4,115	4,115	12,345	▲6.1%	13,150
法人税等還付額	—	—	—	—	—	—	—	—
法人税等調整額	—	▲31,349	—	—	—	—	—	—
四半期(当期)純利益または純損失(▲)	▲19,586	2,114	200,924	17,815	▲113,064	105,675	▲47.7%	201,883
期中平均株式数	5,589	5,589	5,589	5,589	5,589	5,589	—	5,589
1 株当たり四半期(当期)純利益または純損失(▲)	▲3,505 円	378 円	35,950 円	3,188 円	▲20,230 円	18,908 円	▲17,214 円	36,122 円

- ・潜在株式調整後 1 株当たり四半期（当期）純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- ・当年度第 3 四半期の特別損失 44,776 千円は、裁判関連の支払いによるものです。

(2) 貸借対照表 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

期別 科目			前年度	前年度	当年度	当年度	当年度
			第 3 四半期末	第 4 四半期末	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末
			2024.3.31	2024.6.30	2024.9.30	2024.12.31	2025.3.31
(資産の部)	Ⅰ 流動資産	現金預金	759,292	783,127	827,023	868,652	645,688
		その他	179,078	225,106	265,027	261,850	300,067
		流動資産合計	938,371	1,008,234	1,092,050	1,130,502	945,775
	Ⅱ 固定資産	リース資産	202,962	192,486	－	－	－
		他の有形固定資産	797,472	784,927	810,274	788,874	801,484
		無形固定資産(リース資産を含む)	1,008	543	17,303	16,428	15,553
		投資その他の資産	252,404	203,669	203,020	202,063	199,284
		固定資産合計	1,253,847	1,181,626	1,030,598	1,007,367	1,016,322
	資産合計		2,192,219	2,189,860	2,122,649	2,137,870	1,962,098
(負債の部)	Ⅰ 流動負債		199,608	293,783	227,324	223,964	158,513
	Ⅱ 固定負債	リース債務	215,080	201,609	－	－	－
		他の固定負債	1,872,361	1,787,184	1,787,116	1,787,882	1,790,625
	負債合計		2,287,050	2,282,577	2,014,441	2,011,847	1,949,139
(純資産の部)	Ⅰ 株主資本	資本金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
		資本剰余金 資本準備金	68,916	68,916	68,916	68,916	68,916
		その他資本剰余金	41,710	41,710	41,710	41,710	41,710
		利益剰余金 繰越利益剰余金	▲248,659	▲246,545	▲45,620	▲27,805	▲140,869
		自己株式	▲56,798	▲56,798	▲56,798	▲56,798	▲56,798
		株主資本合計	▲94,831	▲92,716	108,207	126,023	12,958
		純資産合計	▲94,831	▲92,716	108,207	126,023	12,958
	負債・純資産合計		2,192,219	2,181,972	2,122,649	2,137,870	1,962,098
	発行済株式総数(株)		5,589 株	5,589 株	5,589 株	5,589 株	5,589 株
	1 株当たり純資産(円)		▲16,967 円	▲16,589 円	19,361 円	22,548 円	2,319 円

- ・リース資産とリース債務は0となっているのは、所有権移転外ファイナンスリース取引を、通常の会計処理に戻したことによるものです。
- ・他の固定負債のうち、商工組合中央金庫からの 300,000 千円と日本政策投資銀行からの 300,000 千円は、それぞれ資本性借入金であり、金融検査上資本とみなされるものです。

(3) 株主資本等変動計算書 (2024年7月1日～2025年3月31日、単位：千円、千円未満は切り捨てて表示)

項目	株主資本						純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	
		資本準備金	その他 資本剰余金	その他 利益剰余金			
				繰越利益剰余金			
当期首残高	100,000	68,916	41,710	▲246,545	▲56,798	▲92,716	▲92,716
第 1 四半期中の変動額 四半期純利益				200,924		200,924	200,924
第 1 四半期中の変動額の合計				200,924		200,924	200,924
2024 年 9 月 30 日残高	100,000	68,916	41,710	▲45,620	▲56,798	108,207	108,207
第 2 四半期中の変動額 四半期純利益				17,815		17,815	17,815
第 2 四半期中の変動額の合計				17,815		17,815	17,815
2024 年 12 月 31 日残高	100,000	68,916	41,710	▲27,805	▲56,798	126,023	126,023
第 3 四半期中の変動額 四半期純利益				▲113,064		▲113,064	▲113,064
第 3 四半期中の変動額の合計				▲113,064		▲113,064	▲113,064
2025 年 3 月 31 日残高	100,000	68,916	41,710	▲140,869	▲56,798	12,958	12,958

(4) 貸借対照表および損益計算書の作成の基本となる事項

四半期の貸借対照表および損益計算書の作成の基礎としている会計処理の原則および手続は、下記事項を除き正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している重要な会計方針等は「第30期事業報告書 注記表 I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記」をご参照ください。

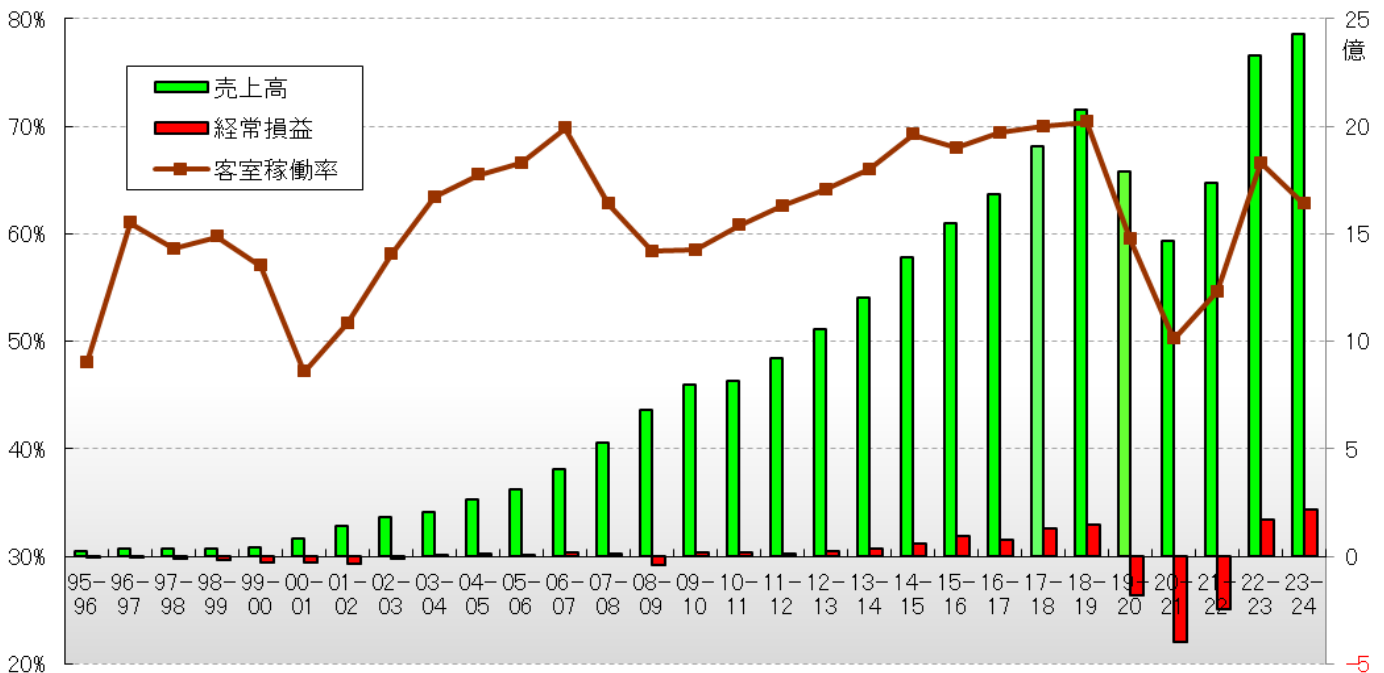
ただし、当年度より所有権移転買収ファイナンスリース取引については、通常の処理に戻しております。

なお、事業年度の貸借対照表および損益計算書の作成のために採用している会計処理の原則および手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。

- 固定資産の減価償却の方法 各四半期の減価償却費は年間償却見積額の4分の1相当額を計上しています。
- 経過勘定項目 未収収益、未払費用等の経過勘定項目のうち、重要性の低い項目は、資産および負債に計上せず期間収益または期間費用として処理しています。
- 消費税等の会計処理 仮払消費税等および仮受消費税等は、相殺のうえ、差額を流動資産または流動負債として計上しています。

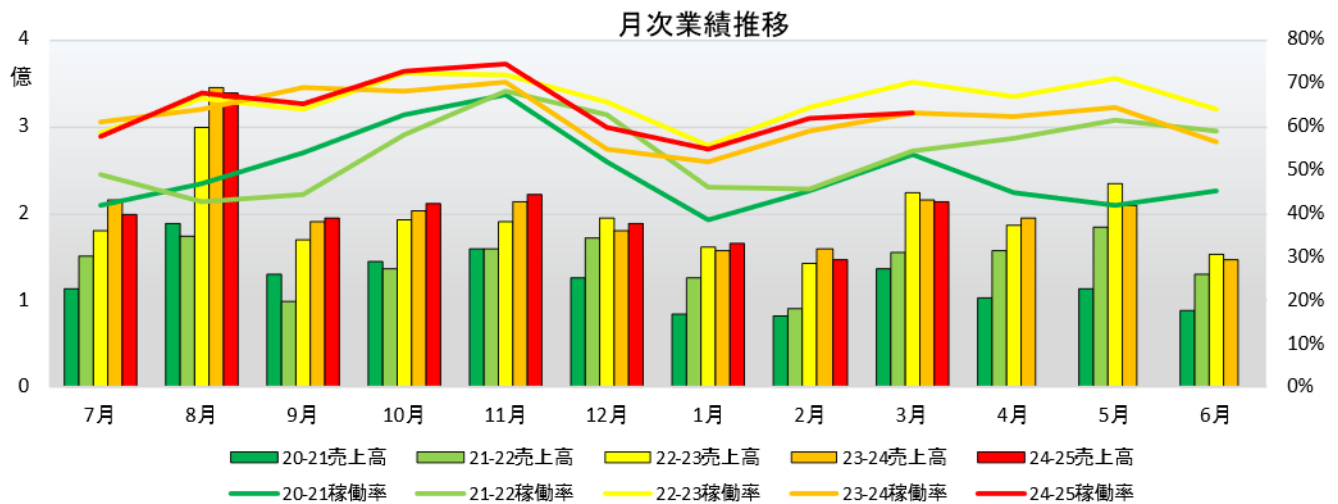
Ⅱ 第31期 (2024年7月1日～2025年3月31日) の業績の概況

(1) 前年度までの、売上高・経常損益・客室稼働率(全社合計)の年度別推移 (通期)

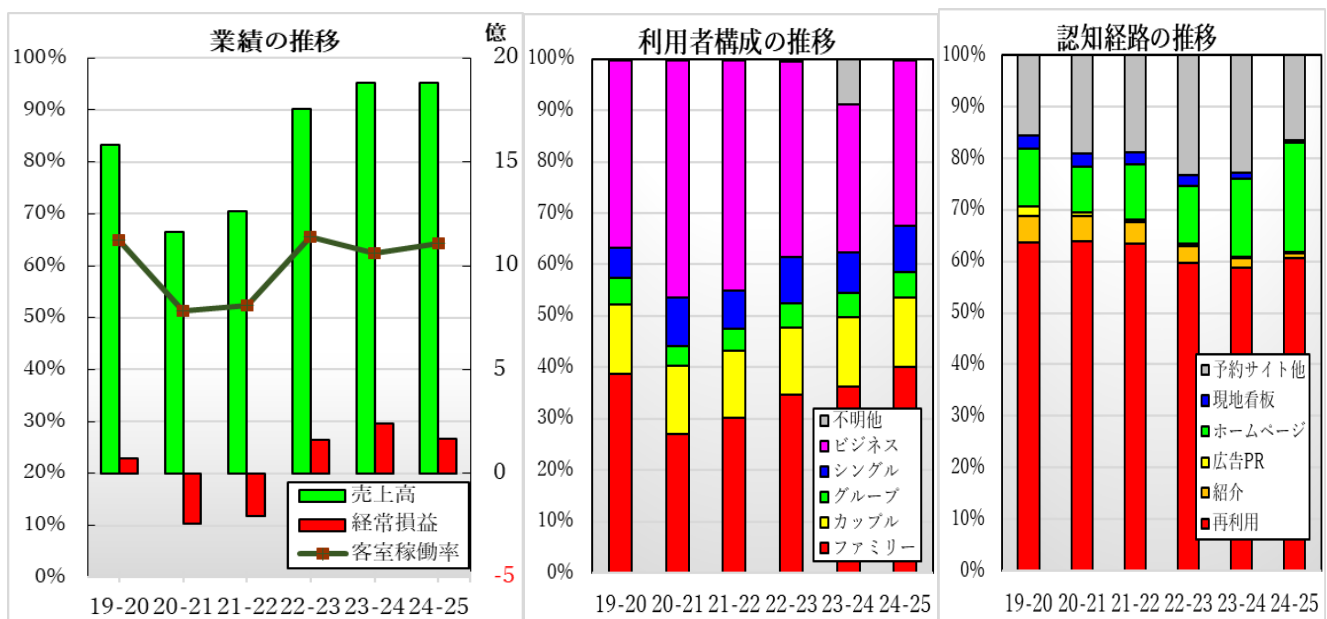


コロナ禍により2020年から2022年にかけて売上が急減し、3期連続で経常赤字となりましたが、コロナ禍の収束と2度の室料値上げにより前年度は売上高、経常利益とも過去最高となりました。ただし、客室稼働率はコロナ前の水準に戻っておりません。なお、前年度において「北上江釣子店」と「秋田六郷店」は契約期間満了により閉店、「那須店」と「日光鬼怒川店」はそれぞれ建替えと補修工事のため一時休業、「金沢内灘店」は能登半島地震により閉店し、営業中の店舗は現時点で73店舗となっております。

(2) 月次の業績推移



(3) 第 1 四半期から第 3 四半期の比較 (7 月 1 日～3 月 31 日)



Ⅲ 第 31 期の売上高および利益の予測について (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別 第 27 期 通期実績 2020.7.1～2021.6.30	第 28 期 通期実績 2021.7.1～2022.6.30	第 29 期 通期実績 2022.7.1～2023.6.30	第 30 期 通期実績 2023.7.1～2024.6.30	第 31 期 通期予想 2024.7.1～2025.6.30
売上高	1,468,293	1,735,040	2,330,659	2,431,760	2,471,000
経常損益	▲400,658	▲246,384	169,268	216,090	150,000
当期純損益	▲417,101	▲329,585	200,088	203,997	100,000

IV 資金および借入金の状況

(1) 現金および預金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨て)

科目	期 第 30 期第 3 四半期 2024.1.1～3.31	第 30 期第 4 四半期 2024.4.1～6.30	第 31 期第 1 四半期 2024.7.1～9.30	第 31 期第 2 四半期 2024.10.1～12.31	第 31 期第 3 四半期 2025.1.1～3.31
現金および預金の増減額	▲194,667	+23,835	+43,895	+41,629	▲222,964
現金および預金の四半期首残高	953,960	759,292	783,127	827,023	868,652
現金および預金の四半期末残高	759,292	783,127	827,023	868,652	645,688

(2) 短期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨て)

科目	期 第 30 期第 3 四半期 2024.1.1～3.31	第 30 期第 4 四半期 2024.4.1～6.30	第 31 期第 1 四半期 2024.7.1～9.30	第 31 期第 2 四半期 2024.10.1～12.31	第 31 期第 3 四半期 2025.1.1～3.31
短期借入金の増減額	▲152,344	+84,976	—	—	▲84,976
短期借入金の四半期首残高	152,344	0	84,976	84,976	84,976
短期借入金の四半期末残高	0	84,976	84,976	84,976	0

(3) 長期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨て)

科目	期 第 30 期第 3 四半期 2024.1.1～3.31	第 30 期第 4 四半期 2024.4.1～6.30	第 31 期第 1 四半期 2024.7.1～9.30	第 31 期第 2 四半期 2024.10.1～12.31	第 31 期第 3 四半期 2025.1.1～3.31
長期借入金の増減額	—	▲84,976	—	—	▲23
長期借入金の四半期首残高	1,847,831	1,847,831	1,762,852	1,762,852	1,762,852
長期借入金の四半期末残高	1,847,831	1,762,852	1,762,852	1,762,852	1,762,829

(4) 投資その他の資産の内訳 第 31 期第 3 四半期末 (2025 年 3 月 31 日) 時点 (千円未満は切り捨てて表示)

170,671 千円	… 借上直営店における差入れ保証金 (契約満了時返済)
24,810 千円	… 「水戸大洗店」修繕立替金
1,210 千円	… 取引信用金庫などへの出資金
1,393 千円	… 信用保証協会への信用保証料
1,165 千円	… 繰延税金資産
34 千円	… リサイクル預託金
合計 199,284 千円	

V 今後の事業展開について

「日光鬼怒川店」の営業再開と、「那須店」の再開延期

建物の老朽化と設備不調により、2023 年 12 月下旬に営業を停止しておりましたが、補修工事を行い、予定通り 3 月 7 日より営業を再開いたしました。

なお、「那須店」については、3 月に新築工事に着手、7 月には竣工、営業再開の予定でしたが、建築確認申請のシステム変更による審査の遅延により、6 月頃着工、営業再開は今秋に延期となりました。

8 月 1 日より、宿泊料金を値上げします

リネンサプライ費や光熱費などの高騰が続いているため、誠に不本意ではありますが、8 月 1 日ご宿泊分から料金を 10～20%値上げさせていただくこととし、すでにホームページなどでご案内いたしました。

債務超過の解消

コロナ禍による売上急減により、2021 年 6 月期より 3 年間にわたって債務超過の状態が続いておりましたが、売上の回復と宿泊料金の値上げなどによって黒字に戻り、昨年 9 月末の時点で債務超過の状態が解消されました。今期は高額な特別損失が発生するとともに今年に入ってから売上が頭打ちになっておりますが、今期末においても債務超過は解消されると予想しております。来期は、再度の料金値上げにより増収増益を実現して純資産額を拡大し、経営の安定化を図ってきたいと考えております。なお、コロナ禍において、日本政策投資銀行や商工中央金庫からの資本性ローンを含め、金融機関から元金返済の猶予など強力なサポートをいただきました。今後の業績の推移を見ながら、来期には通常取引に戻すことも検討したいと考えております。

給与体系の変更と待遇改善

昨年 11 月より全国 7 ブロックにエリアサポーターを配置し、店舗の運営状況や社内コミュニケーションの維持改善を図っておりますが、概ね順調に推移しております。また、コロナ禍により果たせなかった社員の労働条件や待遇改善についても半年間をかけて抜本的な見直しを続けてきましたが、ようやく改定内容が決まり、来期 7 月 1 日より実施いたします。これにより、社員の意欲向上を図り、「旅籠屋らしさ」を守り、「清潔であたたかい宿、清潔であたたかい職場」を実現していきたいと考えております。

以上